



復刊第67号
題字 吉岡弥生



会長就任の辞

会長 三 神 美 和

梅雨の季節となりましたが、會員の皆様にはますますご健勝にご活躍のことと心からおよろこび申し上げます。

去る五月十六日に行われた役員選挙の結果、会長に選出されましたことは身にあまる光栄と存じまして、皆様のご支援に対し深く感謝申し上げます。

七百名を越す出席といい、ご熱心な討議といい、あの熱気に満ちた会場の空気には、つよく胸をうたれました。皆様この日本女医学会に対するつよいご関心とご熱意に対し、会長となりました以上、どうしてもお報いしなければならぬという重責をひしひしと感じるのであります。前期は身の至らなから、さまざまのご忠告やご非難を頂きました。その都度自から反省して参ったつもりでございますが、非力のために今総会においても耳の痛いご発言を頂きました。しかしこれらは會員

の善意ある声として受け止め、なお一層、修業に励み、ひたすら會員のため、会の発展のために尽力する覚悟でございますので、何とぞ皆様、よろしくご協力、ご鞭撻くださいますようお願い申し上げます。

聖徳太子の申された「和を以て尊しとす」とは如何なる時代、如何なる国、如何なる団体でも凡そ人の集るところでは最も大切なことであります。このことが言うは易く、行はるは難いところ世の中のむずかしさがあると存じます。昨年一年間日本女医学会も平穩ではございませんでした。しかしひとたび、お互に反省して心のわかまりをほぐした以上は、潔く、すべてを水に流して、一つになって会を盛りあげてゆくことが望ましいと存じます。本会は政党にあるような派閥などという垣根は絶対のない会でありたいと存じ

ます。私は以前から、この会は日本の女医の中心的団体として、学閥などにとられない相互に理解しあつた場でありたいと願っておりました。昭和四十五年の万国博における救急医療への参加はこの目的に大変役立ったと思っております。更に度重なる国際女医学会への参加旅行などを通じて次第に出身校別の意識もうすくなって参つたように思います。日本医師会は多数の違つた医学校出身者で構成されていまして、あまり学閥争いのようなものは耳に致しません。日本女医学会も会全体が一本となつて如何なる派閥もないようにと願っております。今後この方針でやつてゆきたいと思ひます。會員の皆様との和の精神に訴えて、最高学府の出身者の会として恥かしくない立派な会でありたい。このために努力することとが私の最大の課題であり、願望であります。

このたび多くの新人が役員となられました。

このことは、新しい風を日本女医学会に吹き込むために大変有意義と存じます。封建的、閉鎖的であるという非難をうけた理事会が、民主的、開放的になるといふ期待を持たれることは、会のためによる嬉しいことであります。新人から、ご意見やご発想を充分出して頂いて、會員のために、会のために有意義なことはどしどし採り入れてまいりたいと存じます。

先日の選挙の状況を見て、つくづく感じたことは、役員選挙を含めて、定款の改正はぜひやらなければならぬ

というところであります。理事会の中に定款改正委員会をつくつて早速に検討して頂きたいと思ひます。會員からもご意見をお寄せ頂きたいと存じます。

次に今後発展さすべきことは、本会における学術面の強化、充実であると思ひます。理事会内に新たに学術部をおき、この面に専念して頂きたいと存じます。女医は社会的に医療面を通じて、地域住民に接し、その指導的地位にありますが、他方、科学者として常に新しい医学の研究に参加し、また、これを受け入れてまいらねばなりません。多方面に活躍する會員を擁する本会の活動もまた多方面にわたるべきであります。従来はとかく学術面に乏しいところがありました。今後は若い女医の方々、進み鋭の會員も多数おられますので、学術面の充実は十分期待しうると考えております。

昨年の国際婦人年で、今後十年間は婦人の地位の向上、男女格差の是正等を実践するため行動を起すことという申し合せがありました。日本女医学会もこの運動の一員として参加した以上、少しでもお役に立ちたいと思ひます。幸い女医は男医との格差はあまりありませんので、女医の問題として取り扱

うものはないと存じます。しかし「女性科学者の会」のお話によりますと、官公立機関の男女不平等等は甚しいものがあるといふことです。私共も科学者の一員として、この不平等と男性優位の観念の打破に組すべきだと存じます。今後これら他の婦人の問題にも耳をかして共に手を携えてゆきたいと思ひます。

いよいよ待望の第十五回国際女医学会も近づいて参りました。準備も着々と進行し、資金面も開催可能のめどがついて参りましたのでホツとしておりますが、いざ実際に現場に直面しますと、あれも、これもというふうな不足がおこり勝ちです。四百名にのぼる組織委員の方々が、全員持場をうけもつて頂いて、会がすべてにわたつて円滑に運営されますようお願いいたします。それには全員が丸となつてご協力頂かなければなりません。国際女医学会東京大会を成功させることは、今年の最も大きな仕事でございますので、何とぞ皆様!! よろしくお願い申し上げます。

以上、希望、感想など申し述べ、就任のご挨拶と致します。



吉岡弥生賞を頂戴して

関西医科大学微生物学教室
助教 藪内 英里子

このたび私は微生物学上の業績、殊に緑膿菌についての研究によって、名

譽ある日本女医学会吉岡弥生賞を頂戴いたしました。まことに光栄に存じ、會長三神美和先生、本賞の創設者荒川あや先生をはじめ会員諸先生に厚く御礼申し上げます。私がこの光栄に浴しましたのはひとえに恩師、先輩の御指導、同僚、同窓生の御協力と御声援のたまものと深く感謝いたしております。

緑膿菌は医学の分野でいろいろの問題を提起し続けている古くて新しい細菌の一つです。関西医科大学微生物学教室の緑膿菌研究の歴史は、昭和二十八年に本学附属病院に入院しカンジダ症に緑膿菌敗血症を合併して死亡した一症例から始まりました。この患者の血液からは当時まだ珍らしかった褐色色素メラニンを生産する緑膿菌が検出されました。また耳漏と下股潰瘍面からは青色々素、ピオシアニンを生産する普通の緑膿菌が分離されました。当時は抗生物質に対する緑膿菌の耐性についての知見も少なく、また菌交替現象および菌交替症に対する認識もまだあまり一般化していなかった頃でしたから、この症例と緑膿菌株とは臨床でも基礎でもいろいろな学会で話題になったようです。それ以来緑膿菌の色素産生に関する研究は当教室の主要テーマになり多数の業績が発表されました。緑膿菌はあの特有の臭気と着色によつて他の菌と容易に鑑別されます。けれどもこれらの性質があれば緑膿菌、なければ緑膿菌でないという簡単に考えてよいのだろうかという疑問がこの菌の色素産生の研究にたずさわっている間にも絶えず私の頭の中にありました。

昭和四十二年三月のルドルフ・ヒュー教授(ジョージワシントン大学、微生物学)との出会いによって、私は緑膿菌を含めてプロウ糖非発酵性グラム陰性桿菌の分類学と臨床細菌学の道を歩むようになりました。これらの菌は平素無害病原菌として院内感染の原因になっていきます。医療技術の目ざましい進歩に伴って、病院内には感染に対する感受性の著しく昂進した患者が増加しています。平素無害病原菌についてよく知りこれを制御することは患者



吉岡弥生賞を受賞して

新井 タネ

この度私のような者がこのような栄誉ある賞にあずかります事は誠に嬉しく有難く、心を張り気負って参りました僻地での三十有余年の歳月が心に迫って参りまして全く感慨無量でございます。私達はだれでもみんな自分の人生に向って命がけて生きていたのでありまして、それは私達に負わされた責任であり使命で、当然の事でございませぬ。私も皆様と同じように私なりに私の人生を懸命に生きて来た、その当然の事に対して私だけがこの賞を頂きます事は片手落ちのようで皆様に申し訳なく存するのでございますが、ただ働らいていた場所が僻地であったという事でお許しを得たいと存じます。

の子後に直接かかわる重要事の一つといわねばなりません。私達に限りない研究テーマを残して附属病院で亡くなられた最初の患者、その症例を美事に研究に生かされた大沢忍教授と井上恵美子助教授(何れも当時)のことに想いを馳せ、さらにこのたびの受賞を考えますとまことに感慨深く、また感謝にたえません。今後は吉岡弥生賞受賞者の名譽を胸に一層精進したいと存する次第です。

私の住んでおりますところは鉄道の沿線からおおよそ隔たった民謡の秩父音頭として皆様に親しまれている秩父の山奥でございます。山が高ければ自然谷も険しい、その頂きに中腹に又谷深く人家が二軒、三軒、五軒と散在して部落をなしそうした部落が集って村をなすという地形でございます。昔そこに村の診療所がありました。幾人医者が来てはなかなかに軒の往診にも大変で山を越え谷を渡るといふようなのでみんな二、三ヶ月でやめてしまい、建物も雨がもり曇も腐り荒れるままに放置されておりました。そして、それがしかも私の生れた村だったわけでございます。終戦直前郷里に疎開した私はそこ

で働らいてみる事になりました。私は両親がこの峡間で貧しい生活の中にも泣き事一つ言わず働らいたのを見て育って参りましたので、私自身もいつしか働らく事に安らぎを感じ何かしていないと良心の責めにあうと言う性質で夜でも夜中でもどんな山奥の患者でも断る事なく往診を続け一日の休みもありませんでした。また何が専門という事もなく内科・小児科・産婦人科はも議論、崖から落ちた外傷を診たり変死者の検案まで警察から依頼されますので知識の乏しい私は自然それなりの勉強もしないわけにはゆきませんでした。

そうした私に当事の村長さんが「今までは死ぬ時でもない」と医者にかかるものではないかと思ひこんでいた村中の者が貴女が帰ってくれた事で大変喜んで居る。もうこのまま村に永住する事を約束してくれまいか、若しそうしてくれるならば此の建物を一切貴女に提供してもいい」と再三にわたり申されましたので、私も自分の故郷でもあり、幸い夫も同郷だったので、ついに永住する事を約してしまいました。そうして私に僻地の人々の心を自分の心としてこの地へ根をおろしての命がけの生活が続くことになりました。

に、私の巡った患者を往診して居ります。そして私は土地の人々におぼあちゃん先生と呼ばれて仕事をしてもしなくてもいいからぜひ外来に出ていくれと言われております。私は残された人生を私をしたってくれる僻地の人達によりよい相談相手となつてこの栄に恥ずる事のないよう努力するつもりです。

本当に有難うございました。また私を推薦くださいましたクラスの皆様にごこの誌をかりまして厚く御礼申し上げます。次第でございます。

- ・ 疲れ果て帰るにはほも灯してわれ待つ患者の声きこえくる
- ・ 仰ぎ見る空は次第にひろがりて山の患者はもう一息だ
- ・ 診つづけし患者等と共に我も老ゆかたみに労りの言葉かけつつ
- ・ 産ませしがまた母親となるを診る産科医われの長く生き来し

ただ僻地の医にすぎざるを省みて吉岡弥生賞が手に重し



会議プログラム

8月21日(土)	13:00~20:00 登 録		
8月22日(日)	9:00~17:00 登 録	15:00~17:00 連絡書記会合	18:30~21:00 日本女医学会主催 歓迎レセプション
8月23日(月)	9:00~11:00 開 会 式	14:00~16:00 一般講演	16:30~18:00 ワークショップ (研究集会)
	11:30~12:00 特別講演		
8月24日(火)	9:00~13:00 (2会場) 一般講演	14:30~17:30 総 会	18:30~20:30 厚生大臣主催 レセプション
8月25日(水)	9:00~13:00 (2会場) 一般講演	14:00~16:00 病院見学	
8月26日(木)	9:00~12:30 一般講演	14:00~17:00 総 会	19:00~21:00 晩 餐 会
		17:00~17:30 閉 会 式	
8月27日(金)	日光へ日帰り旅行		

国際会議出席の方へ

組織委員会事務総長
山崎 倫子

一、第十五回国際会議も近ずいてきました。すでに五百六十名の方から申し込みがきておりますが、登録申込用紙をお送りくださったがまだご送金のない方、ご送金がありましたがお急ぎで登録申込用紙をお送りでない方、至急手続きを完了してください。なお申し込みは七月二十日までに切りです。申し込みは日本女医学会本部、送金は住友銀行新宿支店口座番号 No.4322以降の受付は致しません。

八月二十一日午後一時から八時までと八月二十二日午前九時から午後五時までの間、京王プラザホテル四階で登録をおすすめ下さい。お手許にお送りした領収書と引換えに、会議用カバン、論文集、プログラム、ネームカード、レセプション招待状、その他をお渡し致しますことになっております。

二、ネームカードをおつけになりませんと会議やレセプションにでられませんので、必ず登録をすませて下さい。

三、英文で参加者名簿を作成します関係上、これから手続きをなさいます方は、お名前と住所には必ずフリガナまたはローマ字をつけてください。四、お願い致しました切手は充分集

まりましたので、切らせていただきます。有難うございました。

五、お土産のお申し出も切らせていただきます。お手許にご用意の方は、会議中お友達になった方々へ個人的なお土産としてご利用ください。ようお願いします。

六、東京都知事レセプションは外国からのお客様(外国人会員及び同伴者)に対してのみ行われる事になりましたのでご了承ください。

七、会期中京王プラザホテルに宿泊ご希望の方は早く交通公社外人旅行事業部内国課(日本女医学会担当、早川氏)へご予約ください。団体割引料金となります。登録申込用紙と一緒に送りした宿泊および旅行申込用紙をご利用ください。

八、絵画、書、その他作品を美術展示室にご出品なさりたい方は至急本部交付 森 千鶴先生宛ご連絡ください。また会議参加者の中でいけ花を外国人会員にご指導くださる方がありましたらお申し出くださると有難く存じます。

九、八月十七日から二十七日までの間は、事務所は京王プラザホテル四階「うたげ」の間に移動致しますので、そちらにご連絡ください。

なお急用の場合は、至誠会本部(電話三四一八四二二)におことづけください。

書面による連絡は女医学会本部宛で結構です。(京王プラザホテル電話三四四〇一一一代)

国際女医学会第十五回国際会議にご参加の皆さまへ

登録部からのご案内

皆さま、ようこそこの東京会議にご参加頂きありがとうございます。待ちに待った期日も迫り、ご参加の方におかれましては期待に胸ふくらませて種々準備のこととお察しします。組織委員会登録部では六月二十日現在国内参加者五四一名、同伴者二四名、外国からは会員二六九名、同伴者四一名のお申し込みを受けました。国内参加者数がこのように予想外のびましたことは、東京会議を成功させたいという会員各位のご熱意の発露にはかならず、この機会に心からお礼申し上げます。

さて総勢八七五名というマンモス国際会議しかも参加者のほとんどが女性という華やかで楽しいふんい気なこの会議を何とかスムーズに運ぶべく、鋭意準備をすすめております。会議の第一印象を左右するのは何よりも先ず登録業務の上手下手です。そこで私共登録部全員(大原一枝、中西清子、石川きみ子、川島富久子、田那村恵津子)は幸いにもご好意ある協力を申し出てくださった募金部の柳瀬隆子、石田妙子、清水友代、戸田か静子、八木貞子、山本美代子の各姉、更にまた柳瀬募金部長のお呼びかけでお手伝い下さることになった阿部十七、上木艶子、氏原多満子、小田幸子、佐藤敏子、杉村津留子、関口喜久子、鷹見静子、羽左田知子の九姉のご援助を得て、詳細の打合せを行い計画を練っております。

登録の際の混乱を避けるために、皆なさまに是非次の各項目についてご協力くださるようよろしくお願いいたします。

登録場所 京王プラザホテル四階 花房

登録時間 八月二十一日(土) 午後一時—八時
八月二十二日(日) 午前九時—午後五時

☆登録手続は会場到着次第なるべくお早く。

☆お手許にお送りしてある登録費受領書をお忘れなく。

☆受付机は地区別に設けてありますから、所属地区別に(順序よく)おならびください。

☆係りが諸事項確認のうえ、名札、バック、チケット類をお渡しいたします。ご協力のほど、どうぞよろしく。

ではごきげんよくご来場を心からお待ち申し上げます。

第二十一回 日本女医学会定時総会

昭和五十一年五月十六日(日)に東京、京王プラザ・ホテルにおいて第二十一回総会が開催された。役員改選は友野マサ選挙管理委員長と管理委員二十九名にて集計された。投票用紙八百枚を用意し、残部が八七枚であった。開票の結果

理事選挙 投票者数 七三三票 有効票 六七一票 無効票 四二票

投票者数 七三三票 有効票 六九四票 無効票 一九票

なお定款施行規則第四条、第五条、第十五条、第十六条により、会長、副会長、理事、監事が選出された。

新役員氏名 会長 三神美和(至) 副会長 小俣喜久子(鶴) 理事 川那部喜美子(加) 山崎倫子(至) 常任理事 稲葉幸子(鶴) 久保田くら(至) 中川富士(鶴) 野沢良美(鶴) 福永ひろ子(加) 松岡宏子(至) 丸山芙実(加) 森川みどり(至) 守安素女(加)

常任理事 柳瀬路子(鶴) 石田妙子(鶴) 上田葉(鶴) 大西保乃(至) 大原一枝(加) 川口正子(至) 川島富久子(名) 佐野アヤ子(至) 佐藤千代子(至) 鈴木文子(鶴) 竹内静香(加) 野中久子(鶴) 野呂幸枝(加) 橋本恵美子(加) 蓮井敏子(至) 平瀬文子(至) 福島峰子(東北) 藤井禱子(至) 藤田親代(鶴) 八木貞子(加) 山口三重(加) 山本杉(至) 白浜光子(至) 添田百枝(鶴) 森千鶴(加) 以上、アイウエオ順 至(至誠会) 鶴(鶴風会) 加(加多乃会)

なお定時総会議事録は正確を記するため、専門の速記者に依頼しましたため、記録が本部に提出されるまでには時間がかかることと、次号紙上に掲載いたします。(編集部)

就任の辞

副会長 小俣喜久子



緑が鮮やかな季節になりました。この度の役員改選で再び副会長の重席を担うことになりましたことは会員の皆様のご好意とご支援の賜物と厚く御礼申し上げます。

成事は説かず、遂事は諫めずの諺がございます。私はこれからの日本女医学会の前進のため努力して参りたいと存じます。種々出身校は異なっていますが同じ女医であるための日本女医学会の会員でございます。女医の力に、和ががあれば和気致祥、必ず会は発展して参ります。何卒会員の皆様には大乗の見地にたつて会のため大きな和の中でご協力くださいますよう心からお願ひ申し上げます。国際女医学会を目前にひかえた今日、皆様のより一層のご後援を、あわせてお願い申し上げます。和以貴為私共にとつて誠に大切な言葉でございます。

日本女医学会理事及び副会長に選出されて

副会長 川那部喜美子

この度の役員改選に当って重ねて理

就任の辞

副会長 山崎倫子



事にして副会長に選出されお受けいたすことになりました。思えば感なき能わざるところでございます。戦後世状が漸く復興の気運に向ってまいりました昭和三十年五月、先年焼失した日比谷の松本楼において日本女医学会再結成の会合が開かれました時、日本女医の大同団結の必要を説かれ関西が時勢におくれぬようにとの誘いを受けて仲間たちと共に故福井繁子先生に随行して上京しましたのが私にとって日本女医学会中央部の方々と接した最初でございます。

故吉岡弥生先生にはご病室にお見舞い申し上げたまま再びお目にかかる機会はありませんでしたが、故佐藤やい会長、龍知恵会長そして現三神美和会長と代々の会長の下に集い、至らぬながら協力の年月を経てもまいりました。その間、故定方亀代先生、故竹内茂代先生他多数の女医の立派な先輩の方々に接し有形無形に訓えられたことも少くございません。私共は出身校が大いに在るため東京付近には同窓生は少く要するところ一地方勢力にすぎませ

ず、気分的にも相当な相違を経験し、理解にはかなりの時間を要しました。当初より地方の会員の声、東京でないところの考え方の反映を力説し、発言を重ねてまいりました。今日ではす

副会長に就任して

副会長 山崎倫子

に私だけの声でなく、評議員会で支部長の発言も盛んで、支部へ会費の一部の返戻も実行されており、熱心によいことが発言されれば必ず実現されることと信じます。短兵急にはまいりません。今回の総会の前景気といふ今日の異常なまでのハッスルといふ日本女医学会への会員の熱意の発露に他ならないと存じます。議論も発言も大いに結構でございますが、自他ともに女医である誇り、節度を持って行動いたしたいものでございます。私もこれから役員の一入として気分新たに進んでまいる訳でございますが、耳も心も開いて会員の声をよく承り、よく考え、よりよい日本女医学会づくりにむかってお手伝いいたしたいと存じます。全国会員の皆様よろしくお願いいたします。

末筆になりましたがこの度の総会会場にて北沢あさを先生、井出ひろ先生の温顔に心からの敬意を表しましたことを記したいと存じます。さあ、先ず目前の大事業、国際女医学会東京会議を、皆様とともに成功させようではございませんか、生涯のよき思い出を作りましょう。

ご報告し、かわらぬ御指導と御鞭撻をお願い申し上げます。



ふりかえりますとこの二年間、国際女医学会を巡り、誤解、人間不信等諸諸の問題にふりまわされて参りました。社会的にも対外的にも恥かしい思いを致しました。本当に悲しいことでした。

情報の伝達が不十分であったこと、冷静に物事の判断処理が出来なかつたこと、執行部内の「和」と「協調」がたりなかつたこと、等反省させられます。今後の日本女医学会のあるべき姿を、今こそじっくり考えねばならない時だと思っております。

しかし当面は目前に迫りつつある第十五回国際会議を成功させるために、組織委員の皆様と最大の努力をして参りたいと考えています。ご協力の程お願い申し上げます。

和と輪

常任理事 稲葉 幸子



あわただしかつた五月がすぎてもう梅雨、久しぶりにくつろいだ日曜日を庭に立ち、樹々のむせるような緑と明るい太陽を仰ぐ。目にしみる陽の光と崩えいづる新緑に囲まれてしばし体を休めつつ、思うことはただ一つ、和をもって会員の輪をひろげようと願うこと、ゆきがかりはすて、前を、上をむき、皆でしっかりと手をたづさえて、社団法人日本女医学会の将来の発展と、第十五回国際女医学会を意義ある会に成功させ、女医であるという誇りをこの機会に改めてかみしめたい……。全国の会員の諸先生、手をたづさえて歩きましょう。終りにこの紙面をおかりして、私を陰に、陽に御支援くださつた諸先生方の温かいご友情に感謝し、今後は微力ながらご期待にそえるよう努力する所存でございます。

ご挨拶

常任理事 久保田 くら



編集部から理事就任の抱負をもとめられましたので浅学非才をも省みず書かせていただきます。日本女医学会が設立されたその意図をより深く理解することにつとめ、会がよりよき発展の道を誤りなく前進できますよう、僭越ながら微力をつくしたいものと存じます。

す。

なお、何ごにも良識をもって当り全体的性を念頭におき、他人を傷つける事なく行動できる会員たるよう心して力一ぱいの努力をいたしたいと考えています。

就任に当って

常任理事 中川 富士



戦後の日本女医学会再発足以来二十数年、会の理事をしてきた私が、今回始めて理事に選出されたという感じがする。これは私だけではなく多くの旧理事の感想であろうと思う。新発足する理事会は、全会員から全面的に信頼され、好意をもって見守ってもらえるようでありたい。そのためには第一に理事者間の信頼がなければならぬ。またあらかじめ通知された議題に対しては忌憚のない意見の交換が出来る雰囲気作りを願う。さしあたっての執行部は間近にせまつた国際女医学会の準備に全力を結集すべきはもち論であるが、現職委員外の方も応援委員の熱意を充分に受けてより一層立派に有意義に盛り上げて頂きたいと思う。それと共にお義理に入会した会員ではなく喜んで会員になって頂ける会、すなわち日本女医学会会員である事を誇りに思える会

になすべく全役員が力を合わせ誠意をもって作り上げて行きたいものである。将来は日本女医学会館を持てるよう一応の計画をたて準備もしたい。

ご協力をお願い致します。

ご挨拶

常任理事 野沢 良美



このたびの日本女医学会役員選挙におきまして、皆々様の絶大なご支援により理事のお仲間に加えて頂き、またその上、常任理事という大任を仰せつけ頂き、その任の重かつ大なる事を今更のように感じ、身の引きしまる思いでございます。

日本女医学会にとりましては、内に外に重大事をひかえ、会員一心を一心にして対処しなければならぬ時であると思われまふ。

国際女医学会を目前にひかえ、日本の最高学府を終えた我々女医たちは、決してその名を恥かしめないよう日本女医学会発展のためにも努力してまいりたいと念願致しております。そのためにも今後は会員諸先生方の御要望に応え、一意邁進致す覚悟でございます。

すべては、人の和を以て尊しとする「精神」のつとめ、なごやかな裡に大成功に向けて頑張りたいと念じてお

ります。先輩諸先生方の温かい御支援、御指導、御鞭撻を心からお願ひ申し上げます。

再選されて

常任理事 福永 ひろ子



緑したたる箱根の山肌、霧が流れて、真紅のつつじや白い野茨の花が散見される季節となりました。

この度の改選で、再び執行部の一員となった私は、役員の皆様と忌憚のない意見を交換し合い、徹底的な討議を重ねた上で得たものを会の運営面に生かし、かつ会員の皆様へ適確に伝達して行きたいと考えております。

当面二カ月後に迫つた国際会議への協力、懸案の定款の改正は勿論の事、目まぐるしく変転する社会状況への対応等、為すべき事は山積しておりますが、私はそれ等をじっくりと検討し研究し、正しい結論を出すべく努力致します。

なおこの紙面を借りて選挙に当り至らぬ私に対して、御支援下さいました諸先生方へ心からお礼を申し上げますと共に、如何に困難な状況下におかれようとも、私に与えられた任務を忠実に遂行し、御期待に沿いたいとの決意を新たに致しております。

思うこと

常任理事 松岡 宏子



私は、かねてから日本女医会は同窓会ではない、各学校出身者からなる同窓会を離れた女医の集りで、お互の親睦はもれ論、社会への貢献、医学への研鑽等等、それがまた国際女医会ともつながると思っていました。

この三年間の女医会のゆれ方は、徐々に学校意識がなくなってきた女医会が、逆に出身校のことにみに固執してゆく悲しい状態に逆戻りして行っただかに見えます。大変残念なことです。

八月に迫った国際女医会会議を日本ですること、日本女医会会員がこの大きな仕事をするので、また新たな団結をなし得るといふ希望をもっています。個々の力は微々たるものであっても、集れば大きな力となり、思いもよらぬ大きな仕事が出来るとは思っています。しかし、これには会員一同の協力一致、和を以てしなければならぬと思っています。

これからの日本女医会は、出身校意識をなくして、全会員の協力によって婦人団体の模範となるようになりたいと思っています。この紙面をかりて、理事に当選させ

ていただいたことを、厚くお礼申し上げます。

責任を体一杯に感じて

常任理事 丸山 芙実



新緑の好季節となりましたが会員の皆様には各分野にて活躍のことと存じます。私も五月の総会で再度理事としてスタート致しました。

これからは新理事としての種々な課題を負うことになるかと存じます。日本女医会がより一層発展しますよう力不足ですが出来る限り皆様方の手、足となつて働いてまいりたいと存じます。会員諸先生の温かい御叱声は大きな原動力でございます。ただいま責任と使命を、からだ一杯に感じております。何卒よろしくご支援の程お願い申し上げます。

医療問題の一二について

常任理事 森川 みどり



この度先生方の御推挙により再度理事を仰せつかり、御期待にお応えすべく誠心誠意努力したいと存じております。さて現在私共が当面する医師に課せられた諸問題を考える時、第一に二八%問題があります。この問題は医師にとつても、また国民健康保持のためにも重要な問題であります。幸い現在は医師の団結と武見会長の努力によって小康を得ています。

しかし政権の変遷による逆転もあり得るので常にこの対策は確立しておかなければなりません。

次に医療事故については、本来の事故の範囲を逸脱し、医療を受けた側の期待に反した結果に対しては、悉くが医師の過失によるものとして、法の適用もまたほとんどが医師に非があるように取扱われています。

医師にミスが無いものと判断された事例については断固として相手側の訴が根拠のないことを堂々と立証するだけの医学的見解を日常の研鑽を通じて検討しておきたいものと思うこのごろでございます。

ご挨拶

常任理事 守安 素女



社団法人日本女医会第二十一回定時

総会におきまして、理事として当選させて頂きましたことは、ひとえに諸先生方の厚い御支援の賜と厚く御礼申し上げます。今回で三選目でございますが、当選させて頂きました以上は、私の微力のすべてを注ぎ込みまして、与えられましたポジションを全うするべく努力いたします覚悟でございます。で、今後ともなお一層のご指導、ご鞭撻の程よろしくお願ひ申し上げる次第でございます。

また理事会にありましては、必要な議題は当然のことながら、会員の細かいご希望、ご要望もすべてとりあげて納得の行くまで検討し合い、一たん理事会として決定した以上は、民主主義のルールに従って、個人個人の意見としては不満なことがあるかも知れませんが、決定した事項に邁進して行く理事会の姿勢であつてほしいと願ひます。

再任の弁

常任理事 柳瀬 路子



多大の御信任を得て再び会務担当を仰付かりました事に大きな責任を感じております。

当面の仕事は実態調査の結果を国際女医会までにまとめ、何らかのパンフ

レットを出したい事と、今年度内に報告書を出したい事がありますが、空前絶後でありましよう熱気を帯びた総会を振り返る時、会員の女医会への関心が空前の高きに在る事を感じます。会員の心に添う会務を行い、会員にメリットのある仕事を考え、日本医師会とは別な日本女医会の存在価値を模索してゆく事が、我々に課せられた責務でありましよう。歩一歩努力してゆくつもりでおります。引きつずき御叱正の程をお願ひ申し上げます。(51・5・25)

日本女医会の理事に選ばれて

理事 石田 妙子



今回の七百数十名に及ぶ、総会の異常な熱気に包まれたながら私は理事に選ばれました。日本女医会の根本理念は女医相互の信頼と平和の上に存在する親睦団体であると認識しております。ともすると、あの総会の熱気におさらで女医会の本来の姿を見失いそうにならないかと、一抹の不安が私の胸に残りました。

理事としては、会員皆様方のお気持ちをしっかりと胸において、現在までの理事会の姿をよく見きわめ、かつ反省

し、今後は慎重にかつ勇氣をもって積極的に発言し、行動し、皆様によりよく愛される、又信頼される日本女医学会の真実の姿が理解されるよう微力ではありますが努力したいと思います。
今後共皆様方の激励と御指導を賜りますようお願い致します。

理事 大西保乃



萌え出づる

木々の万緑吾もまた

知名度の低い大西保乃の立候補でしたが、お蔭様で、幸運にも当選させて頂き、日本女医学会理事にお加えくださいました事を、厚く御礼申し上げます。
代議員制度の確立、定款改正、地方会員北から南に至る円滑なる交流、地域社会への貢献、品位ある女医学会としての事業。

出発点に立つて去来する抱負は数数ありますが、このうちのいづれを今、会員の諸先生に確約致せるのでしょうか。

ただ、現在の心境と致しましては、会長先生始め先輩諸先生に和して勉強させて頂き、最大限の能力を捧げて歩み一歩掲げた公約の達成に努力したいと思います。

任期中竜頭蛇尾になりませぬことを念じて、公人としての責を果したいと存じております故、何卒御支援、御鞭撻の程をお願い申し上げます。
私はボランティア精神に徹します。

新理事会の一員として

理事 大原一枝



七百人をこえたという未曽有の会員を動員した去る五月十六日の総会で新しく三十五名の理事と三名の監事が選出され、私もその末席に加えて頂きました。

総会でのあの熱気にみちたふんい気を体験して、根底にある不信感の深さをあらためて心にとめました。しかしある意味では日本女医学会がここまで成長したとも思い、また今回の国際女医学会をめぐっての紛争が契機となつて会員の会務に対する関心が高まったことは大変よいことだと思ひました。

新人を加えての新理事会は、従前にはなかった新風が吹きこみ、バランスのとれた力強いものにならなくてはなりません。私もその一員として、日本女医学会の伝統をふまえ、姿勢を正しくして、できる限りの努力をする覚悟です。

皆さまのご支援をよろしくお願い申し上げます。

新理事に就任して

理事 川口正子



諸先生のお力により私の如き者が当選させて頂きました。厚く感謝致しますが最近の状態では世間に対して私は日本女医学会の理事でございませぬという事はお恥づかしい次第です。抱負を少少のべさせて頂ければ、

一、退会者と会費滞納者の防止
何とか魅力ある女医学会にしたいものです。吉岡弥生賞受賞者まで退会されました。

二、理事会のオープン
会誌等で理事会の様子を報告、あるいは傍聴歓迎。すべての会員のための日本女医学会である事を認識して頂く、重要事項は総会で決議する。

三、定款改正

要望の声が多いのです。ことに今回の選挙や役員選出については、でも総会に七百名も出席した事は、まだまだ日本女医学会を受取る人が多いのでうれしい。すべての会員が見直して下さる立派な日本女医学会に生れ変らせるのが私の念願です。

再選に思う

理事 川島富久子



異様な雰囲気の中に、第二十一回定時総会が開かれ役員選挙が行われました。

私は前回、名古屋市立大学同窓会として愛知県支部から推薦していただき、理事の末席を汚し、その時の抱負を十分に果たす事なく一期を終えましたので、個人的な理由も含め有能な友を推薦する積りでおりましたところ、会員の熱意から発した国際女医学会々議の論争が不明瞭なままに奇妙にエスカレートし、女医学会は混乱の域に達し、理事会も動揺いたしました。この場及びいろいろなの方々の御意見から理事の交替をお願いする事の出来ない心情となり、もう一度やらせていただく事に相成りました。

国際女医学会を間近にひかえ立派に遂行したいという全会員の念願を果す事にお役に立てばと願っております。私共大きな仕事をもつ女医学会員が大いに利用し得る意義のある会にすべく、地方会員にも浸透するように、更に若い女医さん達にも魅力のあるものに進めて行きたいと存じます。よろしくお願い申し上げます。

再選に当って

理事 佐野アヤ子



クローマは一日にしてならず長い歴史を誇る日本女医学会も、日本の文化と経済の発展と共に、今や世界の水準に達し、本年は第十五回国際女医学会が東京で開かれる事になりました。日本女医学会として、知性と品位を有する皆様は世界の女医達を真心持つてお迎えたいと思います。

私は過去八年間、国際女医学会の動脈である国際連絡書記として重要な仕事を常に誠意をもって日本代表であることを意識しながら国際本部と密に連絡に勤めて参りました。そして各国の女医達の信頼と理解を深め、このたび日本における国際女医学会々議開催にあたり、この信頼をうらぎらないよう、皆様に充分の御努力をお願い致します。

今後、なお日本女医学会としてなす事はこの国際間の友情と信頼を持続すると共に、学術会議や研究会を行い、若い女医の育成に努め、また発展途上国の女医達の援助を考えていくべきだと思います。今回理事として再選されました光栄を深く感謝すると共に誌上を借り心より御礼申し上げます。

理事に就任して

理事 佐藤 千代子



今回の総会はいろいろな意味で日本女医学会の新時代を劃したものととして、その記録は女医学会史の栄ある頁として残ることと存じます。会議に際し、徹底的に論議を尽くすことは鉄則であり、執行部に対する不信は即否定ではなく、相互信頼の中でよりよい運営へのニードが強いからこそ批判であると考えます。そのためには一つの発言もおろそかには出来ませんが、論議に溺れる事なく、総会が全員のために迅速に進行される事もまた必要であり、あらためて運営の難しさも反省させられました。

女医学会が温和で透明で静謐な信頼関係の中で運営されて行く事こそ私の希望でございます。今後は新しい理事の先生方の、清新のご意見も同じ場で伺い、お話し合い出来るよろこび、これこそ二年間の相互理解の不足を是正する機会と感謝し、誠心誠意をもって尽力して参りたいと存じます。
輝かしい五十一年の女医学会史に国際女医学会々議大成功!!! の華やかな頁が更に加えられる事を願って頑張ります。

理事に就任して

理事 鈴木 文子



この度の総会の理事改選は未だかつてない大変な激戦でしたが、皆様の正しい判断により選出されましたが、一層責任感を身にしてみています次第です。あり難う存じました。

さて私は佐藤会長、竜会長、三神会長と役員をつとめました。一期休第三者としての立場から三年間冷静に見てまいりました。本当にいろいろと嫌な事も沢山ありました。しかしすべてを忘れ去って、会長を中心に新しくすがすがしい気持ちで再出発致しました。そして目前に迫っている国際女医学会を日本女医学会の名誉にかけても立派に成功させるべく、一致団結して和を持って致しましょう。

何卒最高教育を受けておる諸先生、我を張らず、正しく民主的に、そして魅力あるすばらしい会に育ててまいりましょう。微力ではありますが、私最大の努力をつくす覚悟でございます。何とぞよろしくご指導の程をお願い申し上げます。



再選に当って

理事 竹内 静香



この度の選挙に際しましては貴重な一日をわざわざお出向きいただきまして上一方ならぬご支援を賜わりまして有難うございました。お蔭様で再度上位当選の栄を得ました事、心に銘じて深謝申し上げます。過去三年間は国際女医学会の準備に忙殺されました十分なご理解を得る機会を失いました事が女医学会の混乱を来しました一因と存じます。今後は責任の重大さを一層自覚して女医学会の方々の連絡を緊密にし、微力ながら誠心誠意職務に尽力し過去を反省して虚心無我をモットーとして女医学会の和と輝かしい発展のため力を致したく存じます。今後とも私の力の及ばない処は何卒ご叱正、ご指導を賜りますよう謹んでお願い申し上げます。

終りにのぞみまして、先生方のご健康となお一層のご活躍を心からお祈り申し上げます。

奉仕に徹する

理事 野中 久子

未熟で思考錯誤の繰り返し人間の本性ではあるが今回の総会では痛切にそれを感じた。総会の混雑が皆様に与

えたご不快の程を想い浮かべると役員として申訳ない気持ちでいっぱいである。昭和四十八年私は理事になった。



この三年間を顧るに伝統ある理事会では私はあたかも幼稚園児の如くであったと思う。私としてはそれ故に取得出来た新鮮な感覚を貴重なものと思い再度立候補を決意した。私は知力、気力、貫録、風格に欠けており統率力も無い、また闘争性も無ければ尻んや顯示慾などというものは毛頭持たない、私に出来る事は縁の下力持的、奉仕的人間に徹して生きる事である。心暖かく心眼を広くを信条として。提案

- (一) 各地区支部は皆各同窓会員和気藹々真に喜ばしい、その永続性を願うとともに更に一段中央への交流円滑を期するために代議員制は如何。
- (二) クラブ活動。学術、芸術、スポーツ、娯楽等如何。
- (三) 兎に角拱手傍観せず平和で魅力ある会にしたい。

あら尊と青葉若葉の 日の光 芭蕉

新理事として思うこと

理事 野呂 幸枝

皆様の御支援を得て、この度新理事の席に着かせていただくことになりま

したが、何分勤務の身分ですので、理事会出席の成績がどうなりましようかと案じています。しかし、各種学会を



通じ、あるいは国際女医学会出席の旅を通じて、出身校にとらわれない多くのお友達を持ち、日本女医学会の隆盛を心から願う者でございますので、皆様が要求されるお役を果すべく努力を致す覚悟でございます。

先づ目前に控えている国際会議を成功させるために一致団結して、多くの困難を乗り越えねばならないと考えます。
今日まで随分御尽力なさり準備を進められた先生方の後につき、何らかのお手伝いができればと考えています。
この「会議」を立派になし遂げることも、日本女医学会の団結をかため、その後の一層の成長の力を得るものと考えています。

日本女医学会

役員改選を終って

理事 橋本 恵美子

人心一新を掲げ「新党を作るぐらいの気持ちで諸体制の刷新改善」を叫ぶ領袖がある一方で「辞任の大義名分なし」とあくまで強気なお方あり、このとこ



る政局まことに目まぐるしい。どこかの会と似ていませんか……などという叱られますよ。でもやっと改選劇は終りました。何ら変りばえしないじやあないの、あんな大騒ぎして……とか、いや体制はすでに動き始めた、見守ってゆこう……とか、何ともはやサマジイッ!! と悲鳴すらも。あれやこれやと会員の思いは千々に乱れつぱなしの様子。それにしてもナゼ国際女医学会長の小野春生さんダメだったの、今まさに国際女医学会を前にして……冷たい人達だな。そんな声も聞えました。考えさせられますね。改正も刷新も結構。でも「会長は廻り持ち」を次にはぜひ具体化させたい。それが会員の「会離れ」を防ぐ大きな要素になりませんか? 雨後の御堂筋は今最も美しい眺めです。

理事就任に際して

理事 蓮井敏子



薫風新緑の頃、私を理事に推挙頂い

た御温情に御礼申し上げ、向後微力ながら中央機関との懸け橋として、和やかな運営を、一歩一歩、女医共通の心の支えとなる日本女医学会を目標に、努力致したい心持しております。地方会員は、学閥も無く、向上と親睦の実をあげ、各地に特徴を發揮、現在に至っております。

世界医学界の情報や、親愛の絆を地方会員は渴望しております。全国を十数群に区分し偏重を排し、正副理事を置き交替出席を行い、無欠席理事会を実現、相互意見を充分討議し、報告を密に行い、国際会議終了後も引続き御支援を地方会員代弁者の私に頂き、先輩理事諸師の御指導のもとに、この願いが一日も早く実現するよう、民主運営の礎となる定款改正を必要事項について決裁し、近代的女医学会が完成されるよう、僭越ながら希望致しますと共に、新任のお礼と御挨拶を申し上げます。

昭和五十一年五月二十七日

新理事に就任して

理事 平瀬文子



この度はからずも理事に就任し、責任の重大性を痛感しております。これ一重に皆様方の御支援によるものと厚

く御礼申し上げます。夏には国際女医学会が日本で開催されますが、一人でも多くの会員が出席して、世界各国の人々と交流し、視野を広めたいと思えます。なお日本女医学会が民主的成長を遂げるよう微力をつくしたいと思えます。

争いのない和やかな集りにするべく、努力したいと思えます。理想と現実は一致しないのが、世の常であります。私心を捨て、社会性のある女医として秩序ある行動をとってゆきたいと考えています。また若き女医が興味をもつて海外会議に参加出来るような会にしたいと思えます。長い歴史をもつこの女医学会の発展を期待して、筆をおきます。

所感

理事 福島峰子



かなり緊張した雰囲気での理事選挙であった。それ程関心を集め、意識が高まったというのであれば誠に喜ばしい。ただ日本女医学会というなら同窓会代表理事のような形にしない方がよいのではないだろうか。全国各地から代表を選んで、常任理事、幹事を在京の方で、という方が選挙も行いやすく私共の代表という感じが強く、執行部

独走という批判を受けないよう思う。各地区にはそれぞれ支部があり独自の活動をしており、そこにおいては同窓会は全く意識されていない。中央でことあるごとに同窓会名が述べられることは、私のように三大同窓会に属さないものにとっては異様な感じがする。現在は国公立の医大または医学部が七十校に及びそのいずれの大学からも毎年何名かの女医が誕生してくるとすると、特に若い卒業生の参加を得るためには現状でよいのかどうか、今後の問題として提起したい。

雑感

理事 藤井徳子



私が、日本女医学会の会員となったのは、たしかフイリピンで国際女医学会があり、その帰途日本へ寄られた各国の女医の方々に歓迎する会に引っぱって行かれた時である。日本女医学会も世界各国の女医と一緒に何か仕事をすることもできるのだという思いをいただき、女医学会の存在意義を少しばかり納得した。

この度、二度目の理事をつとめさせていただくことになった。御支援いただきました先生方に改めて感謝しつつ、次の三年間、具体的には何を

だろうかと考えてみた。私はやはり、今までと同じように基礎医学を学ぶ医者として、教育者として、また社会人として勉強を続け、その土台にたつて全国女医のよりどころとなりうる日本女医学会、この先、世代が変わっても存続しうる女医学会、とはどうあるべきかを考えて事に処し、また、先進国の女医学会として、発展途上国を少しでも援助できるような会に成長できたらとの夢を持ちつづけるであろう。個人としても、団体としても、国としても先に生まれたものは後から生まれれるものに対して、何がしかの義務があると思

ご挨拶

理事 藤田親代



わたくしの好きな幾つかの字の中に「愛・和・努力・情熱」があります。時に臨み、事に接し、これ等を帯びて、一歩一歩進んでゆきたいと願っています。

前途に光を

理事 八木貞子

うららかな春はきびしい冬のあとか



らやってくる。日本女医学会も又きびしい試練を経て、さわやかな五月を迎えた。思い返せば長い紛争も今日の青空をみる如く去る二月の臨時総会には互いに握手して国際女医学会の成功を祈念し、更に五月にはまれに見る多数の会員を迎えて盛大にして活気漲る定時総会が開かれた。日本女医学会もこれを機として更に前進し女医にとって必須的存在にたらしむるよう一歩一歩努力して行きたいと思う。そしてまずは近づく国際女医学会の成功こそ日本女医の真価を世界に披露する唯一の機会でもあり一人でも多く会員となり一丸となってこの大事業に参加する事に大きな意義があるのではないだろうか。今回再び皆様のご支援を得て理事に当選致しました事を厚く御礼申し上げますと共に今一層の努力をもってご期待に沿うべく決意しております。何とぞ今後とも諸先生のご指導とご支援をひたすらお願い申し上げます。

新年度に思う

理事 山口 三重

今回、役員改選に当り、お陰を持ちまして不肖私も理事の末席を汚させて頂く事になり、その責任の重さを感じ

ております。微力ながら皆様のご支援のもと、事情の許す限り努めてまいりたい所存でございますので、何卒よろしくお願い申し上げます。



八月に国際会議という大事業を目前に控えて、一致団結してこれにあたり立派に成功させたいものでございませう。何事を致しますすにも「人の和」がその基本となります。和を保つには、お互いに信じ合い、またお互いその信頼に依ってこそ、会の運営も円滑に進行するものと存じます。各人各様の個性を持ち寄り、それを生かし、他の意見をも尊重して、賢く統合された女医学会でありたいと思っております。過去のわだかまりを捨て、明るく前進したいものと存じます。

新理事を迎えて

理事 山本 杉



こんど理事会は新しい何人かの理事を迎えました。この理事たちが、何か意識し、何をしようとして、敢えて苦

労をかけて出てこられたかを考えると、私は、絆を正さずにはいられませんが、

「理事の会ではない、会員の会である。地方の末端の会員の声が反響するような運営を」という地方の声をよく聞いて、会の目的及び趣旨達成のために自分を無にしてもつとめなければならないと思えます。そのためには社会に眼をむけて、もっと真剣に勉強もしなければならぬし、会のために実践しなければならぬと思えます。

大きな事業に対しては和を根底に、筋を通して、結束してかからなければならぬ、と考えます。

要はこの会がもっとおとなになり、和氣藹々とやってゆかれるようになりたいと願っています。以上の念願のもとに姿勢を正して進みたいと考えています。

監事就任のご挨拶

監事 白 浜 光子



図らずも日本女医学会監事として当選させて頂き、光栄に感じますと共に、大役を果せるかどうか、今更ながら責任の重大さを痛感しております。一生

懸命新人立候補者を応援してくださいました会員の皆様、また地元の中野区春光会の方たち、クラス(東京女医専、昭和十七秋菊月会)の方たちの温かい

お励ましは、学生時代いるかないか判らないような存在でした内攻的な私にとつて、ほんとうに有難い力ずけであり、この年令になって、やっと清水の舞台から飛び降りたような勇気を与えられた、得難い経験でございました。これから先輩諸先生のご薫陶を仰ぎ監事の職務についても一から勉強して皆様のご期待を無にしないように努力して行きたいと思っております。クラス

の伊藤慶子さん、熊手照代さんは、広い社会性と知性を持たれ、理事会に入られれば必ずや優れた実力を發揮なさる方と思いますが、地方出身のため選挙に不利でしたことを、ほんとうに残念に思います。つとに高まって来た日本女医学会員の自覚と関心によって、地方も中央も、同じ権利と福祉を領ち合

い、常に和やかな交流と女医の啓発の場として、今後日本女医学会がより見事に開花することを望んで、微力ながら少しでもお役に立ちたいと思っておりますので、どうか今後共よろしくお願

監事 添 田 百 枝

昨年是世界婦人年でもあり、わが国における女性の国際的活躍も、明治、大正、昭和の前半を黙々と蓄積して来た一部分の流出であったと思えます。ひとり日本女医学会だけが遅れをとるわけ



はなく、民主的自覚が今日ほど高まったことは全く、喜ぶべき悲鳴であったと思えます。今期は新役員十名を迎えて、前期にもまして、民主的運営が行われるにちがいありません。とくに衆目の集まっている華やかな第十五回国際女医学会々議をひかえて、無事に完了したいと思えます。又その後も、何よりも大切なことは、学風の異った女医たちが「和」をもって、しかも「互護」の精神を發揮して、会員に魅力ある会であるよう努力したいと思えます。私共監事に与えられた職責は厳正で、公正に計りたいと思えます。

(一九七六・五・三十一)

監事 森 千 鶴



新緑の季節会員の皆様にはご機嫌よくご活躍の御事とおよろこび申し上げます。この度の日本女医学会総会におきまして監事として立候補いたしましたところ会員諸先生のご好意とご支援によりまして監事として選出いただきまして有難うございました。身に余る

光栄と存じ感謝いたしております。紙上をもちまして皆様に厚く御礼を申し上げます。

私にとりましては重すぎる任務と存じますが長い間の諸先生方のご芳情におこたえ申し上げたいと存じております。ただ今のところ使命感にあふれておりますこの初心を忘れない事を深く肝に銘じお約束を申し上げ努力いたす所存でございます。いよいよ国際女医学会東京会議も目前に迫り役員諸先生方には日毎に準備万端にご多忙の日々をお過ごしと存じますがどうぞ健康にご留意くださいますように活躍くださいますよう祈り上げます。

日本女医学会は戦後昭和二十九年再発以来歴代の会長先生方のお力によりましていよいよ充実発展、社団法人日本女医学会として目覚ましい躍進を遂げ今回は国際女医学会々議の晴れの舞台の時となりましたことは御同慶の至りで感激の他ありません。およばずながら私も組織委員の一員としてこの東京会議が成功裡に運ばれますよう祈って努力いたす覚悟でございます。

以上

私ごとで恐縮に存じますがこの際吉岡弥生先生の憶出を少しのべさせていただきます。私は昭和八年旧大阪女子高等医専卒でございますがこの年の夏大阪におきまして日本女医学会が開催されました新卒の私たちを迎えてくださいました。卒業生の過半数以上が日本女医学会会員として入会させてくださいました。当日は東京より私たちの尊敬し崇拝申し上げる吉岡弥生先生がご来

阪くだされ又京阪神の知名の先輩女医先生も多数のご出席でございました。

弥生先生よりは女医相互の親睦社会的使命等を大きな見地よりお話しただきばげましたお言葉をいただき、ただただ感激いたしました事を覚えております。その後昭和十三年御縁があつて私は都下国分寺へまいりました。當時は国分寺村で新設の国分寺病院へ赴任いたしました。この頃日本女医学会よりは立派な体裁の「日本女医学会雑誌」が年二回発行され送付を受けました。編集者として杉田鶴子先生、田川澄子両先生の活躍された時代でございます。以後数年第二次世界戦争の空襲激化に伴い発行が停止されたよう記憶いたします。寝食を忘れて地域医療に従事した戦中戦後のげげしさが今は夢のように思い出されてなりません。これがその時代の開業医の本当の姿であつたようでございます。その後昭和二十八年一月頃日本女医学会再発足の準備が進められ私達加多乃会員にもおよびかけいただきました。その日は旧和室の至誠会会議室での会合でございます。一同お待ち申し上げておりますと先生はダットサンの乗用車でのご来駕でありました。黒いお羽織を召されたふくよかな笑を浮かべられた白いお顔が美しく、八十才をお過ぎ遊ばされた先生とはどうしても思えぬご立派なご様子でございます。今となつては直接に先生のお姿に接しお声をかけていただいた貴重な一時であつたと深くかみしめ忘れ得ぬ先生の憶出として大切にさせていただきます。

Circular Letter

No. 39

国際女医学会本部通信

国際連絡書記

佐野アヤ子(訳)

昭和51年4月20日

国際女医学会々長先生と次期会長 D. Thieme が国際本部(ウイン)にて東京会議について色々の重要な要件を協議され、東京会議の準備は順調に進み、大変興味深く、実のある会議になる事と思ひます。

注意事項

一、次の全書類を七月一日までに国際本部に送ること。

- (1) 十五回国際女医学会々議の代表とする五人の理事代表と二十五人の評議員名

- (2) 五十年会員の名前は表彰状を作るために期日までに必ず送る事、全五十年会員は東京会議で表彰される

- (3) ブラジル会議以後の物故者の名前

前

(1) 会務報告

(2) 統計的報告

これは会議後、レポートとして国際女医学会本部から各国に送られる。

以下省略

国際女医学会執行部(会長、副会長、前会長、次期会長、名誉書記及び名誉會計)の会議は八月十九日(二十一日まで行われ、連絡書記及び執行部をまじえた会議は八月二十二日に行われ重要な決議事項が討議されます。詳細を知りたい方は本部までお申し出ください。

付記としてナイジェリアが正式に東京会議で国際女医学会に加入する事になりました。

Martha Kyrle 名誉書記

理事会議事録

日時 昭和五十一年三月二十七日

(土)午後三時~五時十五分

場所 京王プラザホテル

出席者(敬称略)

三神、川那部、山崎、大原、小野、久保田、佐野、中川、福永、丸山、守安、柳瀬、稲葉、川島、熊谷、佐藤千、白橋、竹内、中西、野中、福島、真鍋、森、森川、山口、湯本、八木、佐藤イ、添田、戸田

欠席者(敬称略)

小俣、上田、石田、長池、藤井、山本

庶務報告

久保田常任理事

会員物故者

松井 とし

退会者

五名

入会者

東京女子医大新卒者

六七名

・記念切手発行の件
国際女医学会会議開催に際し、記念切手発行の申請をしていたが、件数多く認可されなかった。
・女医実態調査について
三月末日までに国際女医学会で発表する草案ができる。

會計報告 福永常任理事

二月分会計報告 一承認

議事

I 第二十一回定時総会次第

開会のあいさつ

会長のあいさつ

物故者への黙禱

議事録署名人選出

会務報告

国際連絡書記報告

議長選出

議題

(1) 昭和五十年度収支決算報告、財産目録、年金損益計算報告、監査報告、剰余金処分案

(2) 昭和五十一年度事業計画案

(3) 会費値上げについて

(4) 会費長期滞納者の取り扱いについて

(5) 昭和五十一年度収支予算案について

(6) 次期総会開催地について

役員改選

昼食

映画 東京小児療育園

国際女医学会議準備報告

吉岡弥生賞授賞式

役員選挙報告

閉会のあいさつ

II 昭和五十一年度収支決算推定額……

守安常任理事

別紙の通り

III 昭和五十一年度事業計画案……

別紙の通り

(イ) 講演研修費……(十万円)

今後、研究・講演会を行う姿勢

をうち出すべきである。

(ロ) 公衆衛生費……(十万円)韓国

救済診療への助成をしてはどう

か。

(ハ) 女医の実態調査費(五十万円)

女医の実態調査を別途会計とし

て編纂することに対し承認す。

本会計より五十万円、補助金六

十万円、その他寄付金で出版す

る。

(ニ) 名簿発行……一冊千円(有料)

とする。

(ホ) ルーペンダント……収益を

如何に整理するか種々の意見あ

り。発案者の小出氏に相談する

ことに全員賛成。

IV 会費値上げについて

昭和五十一年度より

一般会員 五千円

新卒者 三千五百円

V 会費長期滞納者の取り扱いにつ

いて

会費長期滞納者除名につき、五年

以上とするか、十年以上とするか

検討の結果、十年以上を自然退会

者とするに過半数賛成

五年以上十年未満滞納者数

三〇六名

十年以上滞納者数 七二八名

ただし住所不明者をふくむ。

(昭五一・二・二八現在)

VI 昭和五十一年度収支予算案

次回理事会で検討

VII 次期総会開催地の件

第一候補……京都支部

第二候補……岡山、神奈川支部

VIII 役員選挙について

(イ) 議長選出の件……次回までに

検討する。

(ロ) 会長より議事進行前に役員選

挙を行なう旨の提案あり。

常任理事会としてはこのことを

総会にはかるといふことであつ

たがどうか。(これに対し昭和

五十一年度任期満了として議事進

行をしなかつた場合、昭和五十

一年度総会も流会となることを考

慮し)原則として、総会次第通

り行なうことに対し了承す。

(ハ) 役員選挙用紙の件

立候補順に至誠会、鶴風会、加

多乃会として、まとめて記載す

る。

(ニ) 選挙管理委員を各三大同窓会

より九名ずつ、その他より三名

選出すること。

その他

総会開催日時

昭和五十一年五月十六日

午前九時

評議員会開催日時

昭和五十一年五月十五日

午後四時

以上

久保田 くら

昭和五十一年会費について

会費が年額二千五百円から四千

五百円に値上げすることが昭和五

十一年五月十六日の第二十一回定

時総会で決定されました。

物価上昇の折、大変恐縮ですが、

会費未納の場合は請求書挿入し

てありますので、振替用紙ご利用

の上、ご送金くださるようお願い

いたします。

名簿発行について

名簿は役員改選の年、三年に一

回発行されます。

学位有無、住所表示、電話番号

の変更は日本女医学会本部にハガキ

でご連絡願います。

発行予定十二月上旬ですがお届

けは九月末日までお願いいたし

ます。

雑報

長期会費滞納者の取り扱いに

ついて

十九年以上会費滞納の場合——過日

滞納されている方にハガキにてご連絡

してありますが、八月末日までにご送

金ない場合は自然退会になりますので

ご了承願います。

ルーパーン・サマーセール

昭和五十一年七月一日——八月十日

(消印有効)ルーパーン・サマーセ

ール期間で特別価格になります。

訂正

第二十一回定時総会、会務報告五頁

会費調べ中、十年以上未納者調べの項

目次

長野 県 誤 ○名・正 六名

大阪 九支部 誤 四名・正十二名

右の通り訂正し、おわびいたします。

編集後記

国際会議もあとふた月たらずと、も

う駆け足で近づいている。日本で各分

野にわたる多くの国際会議が開催され

てきたが、みな好評であった。これは

おそらく日本人の性格を反映するもの

であろう。今回も接待過剰とならず、

しかも気持よく過ごしていただだけるよ

う努めたい。

他国で開かれる学会や会議に出席し

て思うことは、日々のスケジュールや、

会議以外の事で知りたいと思う事柄に

関し、たとえ小さな質問にも、すぐ明

確な答がえられるかどうかである。皆

が、いろいろな情報を把握して、

すぐ答えられるようにするために、

互の連絡が密でないといけないことで

ある。言葉は、不自由であればわかる

人に自分の言いたいことを伝えてもら

えばよいので、さして障害にはならな

い。

二月二十二日以後は、国際会議に向

って何はともあれ皆が協力して歩み出

したと思っていたところ、六月はじめ

に不思議で不愉快な葉書が届いた。差

し出人笹鳥鏡子他。すでに亡くなら

れた方と同う。死者の名を借りてしか物

申すことのできない医者がいることで、

いろいろと考えさせられた。大勢の会

員の方々の御意見が寄せられることは

歓迎すべきことである。しかし、責任

ある発言であれば当然自分の名を記す

べきであろう。

(藤井)

三年間つとめさせていただいた編集

委員も変わることにになりました。はじ

めて参加した者も多く、いろいろと至

らぬ点が目立ったことと存じますが、

お詫びして皆様のご協力を感謝いたし

ます。

大原 一枝

丸山 芙実

湯本 アサ

森 千鶴

藤井 憐子

昭和五十一年七月五日印刷

昭和五十一年七月十日発行

編集人 大原 一枝

発行人 日本女医学会

発行所 東京都新宿区

市ヶ谷河田町19

社団法人 日本女医学会

TEL(34)〇九六八

印刷所 東京都港区白金五十四一

興栄美術印刷株式会社